



2006 年 1 月 1 日発行
発行人：徳丸 公義
発行所：神戸市中央区海岸通 8
神港ビルヂング 5 階 509
TEL：078-393-0050
FAX：078-393-0051
E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
URL：<http://www.kobekeio.org/>
編集：堀 友子・八巻 晤郎

謹 賀 新 年

「新年ご挨拶」

神戸慶應倶楽部会長
五代 友和 (昭 37 商)

新年明けましておめでとうございます。



神戸慶應倶楽部会員の皆様、ご家族の皆様には良いお正月をお迎えになりましたでしょうか。

世の中変な時代になってしまいました。我々の理解出来ない残酷な社会事件も多く、イラクや北朝鮮問題をはじめ世界情勢も依然として混とんとしており、この小さな地球は一体どうなってしまうだろうと懸念したのは皆様ご一緒だと思います。

ただ日経平均株価が 5 年ぶりに 1 万 5 千円を回復するなど経済の面では落ち着きを見せ又しっかりとした足取りになって来たことは嬉しいことでした。

神戸慶應倶楽部の行事も、11 月の城崎での関西合同三田会は、高橋実行委員長はじめ神戸の皆さんのご努力で成功裡に終えましたし、徳丸幹事長のご尽力で春は赤穂に、6 月はゴルフ 1 泊、そして 11 月にはとうとうタイ・バンコクまで足を伸ばす等いろいろなツアーが生まれ、多くの会員が楽しみました。とりわけタイツアーでは、バンコク三田会との交流も計られたことは特筆すべきことでしょう。

同好会活動も幹事の皆さんのご努力で夫々活発に運営され、神戸慶應倶楽部の存在感は他に例を見ない大きなものになって来ました。

そして忘れてはならないのが毎月発行される「BRB」です。堀さん、八巻さんの奮闘で神戸の会員は勿論のこと関西のみならず多くの三田同志が感心しながら愛読してくれていることは大きな誇りです。

今年も皆様方の積極的な参加とご協力で会員の憩いの場であり、又いろんな情報の交換の場である神戸慶應倶楽部が一層賑やかに運営されることを望んでやみません。

皆さんどうぞよろしく願いいたします。

神戸慶應倶楽部幹事長
徳丸 公義 (昭 54 商)

新年明けましておめでとうございます。



今年の冬の寒さは一段と厳しいものがありますが、神戸慶應倶楽部会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

昨年は、春先には慶應義塾高校の 45 年ぶりの甲子園出場、初夏の宿泊ゴルフ、11 月の城

崎での関西合同三田会そしてタイ・バンコクツアー等さまざまなイベントが目白押しでしたが、いつもたくさんの皆様のご参加を頂くことができました。おかげさまで五代会長のご指導の下幹事一同も自ら楽しみながら運営させていただくことができました。ここに改めてお礼申し上げます。

タイのバンコク三田会との交流会では、神戸慶應倶楽部が自前の倶楽部ルームを持ち、事務員の方が常駐している旨を説明しますとバンコク三田会の方からはたいそう羨ましがられました。全国でもこうした三田会は指を数えるほどしか存在せ



ず、これも 280 余名の会員の皆様の日ごろのご協力とご支援のおかげであります。

今年も皆様方の積極的な会合や同好会へのご参加とご協力によりまして神戸慶應倶楽部がさらに一段と魅力的な倶楽部になるように微力ながらお手伝いさせていただき所存です。今後とも宜しくお祈りいたします。



～新年賀詞交歓会にお集まりください～

平成 17 年 1 月 5 日 (水) 11:30～17:00

＜倶楽部ルームにて＞

時間内にご自由にお集まりいただき、ご歓談ください。お酒と軽食をご用意しています。

(会費：無料)

～年末家族例会レポート～

西出 晶子 (昭 48 法)

真冬並の寒さが幾分緩んだ 12 月 10 日、神戸ポートピアホテルで家族例会がありました。開会のご挨拶に立たれた五代会長はこの一年を振り返って、城崎での関西合同三田会が成功裡に終わったこと、ゴルフ・タイの各ツアー企画、毎月の BRB 発行が、それぞれ大好評だったことに触れられ、各担当役員・幹事の方々の労をねぎらわれました。

続いて関西合同三田会実行委員長をされた高橋副会長が、会員のご協力と、徳丸幹事長始め若手幹事の方々の長期間に渡る綿密なご準備とお骨折りに対し、お礼の言葉を述べられました。

♪「もろびとこぞりて」♪、神戸 YMCA の皆様のハンドベル演奏が始まりました。指揮者の阿部先生の解説を挟みながら、お馴染みのクリスマスソングが続きます。オリジナル曲「セレブレイト」

は華麗な祝賀の調べ。ベルを机の上に伏せたり、マレットで打ったりと多彩な演奏方法を披露されました。澄みきった音の響きに魅了され、「ホワイトクリスマス」のメロディにのって歌詞を口ずさむ頃には気分も最高潮。



青

戸先輩の乾杯のご発声で、賑やかに宴が開始されました。中内さんのご好意で和洋中取り揃えられたご馳走の数々に舌鼓を打ち、ゆったりと親睦の時間が流れます。色とりどりのデザートが登場する頃、徳丸幹事長によるタイ旅行のスライド上映。アユタヤ遺跡・タイ舞踊・バンコク三田会交流会と初の海外ツアーの様子が写しだされました。

お腹がたっぷりと満たされたところで、いよいよオークションの開始です。今宵のオークションは、お揃いの黒でお洒落にきめられた浦上先輩



ご夫妻。次々と登場する魅力的な品々に、お二人のお勧め上手なご紹介が加わって、ついついお財布の紐も緩みます。大人に混じって、

小さなお子さん達からも可愛い声がかかります。お祖父ちゃまに沢山おねだりをしてご機嫌な五代会長のお孫さん、パパの冷や汗も知らずにパパの為、必死にゲットしようと値を吊り上げる堺前幹事長の坊や達など、競り落とした時の満足げなお顔は微笑ましい限りでした。浦上先輩の「ここは、物を買う場ではなく、神戸慶應倶楽部を愛する場です!!」の声にこえ、売り上げは数年来の最高値 316,500 円に。鮮やかに取り仕切られた浦上先輩ご夫妻、本当にお疲れさまでした。



最後に新入会員石崎さん(平 9 経)のご挨拶、若き血合唱と松尾幹事のエールの交換で、神戸慶應倶楽部ならではの和やかな家族会が盛会のうちにお開きとなりました。

三宮に向かうシャトルバスの窓からルミナリエの美しい光を眺め、パーティの余韻で温かく幸せな気持ちのまま家路につきました。



【慶雲應輝】

殺伐とした世の中になってきた。

入居者の生命や安全などよりも、自分達の金儲けに走る不動産関連業者、リコール隠しをして事故による死者まで出しても企業の利益を確保しようとする自動車メーカー、産業廃棄物を偽って不法処理する企業、・・・数え上げたらきりが無い。よくもこれだけ次から次へと毎日のように法律も倫理もわきまえず、志のない日本の経営者の実態が暴かれるものだ。福澤先生が生きておられたら何と思われるであろう。

利益至上主義という現代の世相を現していると言えばそれまでだが、我々昭和時代の人間は、次の世代に祖先から引き継いだ日本人の生き方として、「正道を歩む」「利他」といった精神を伝えていく責任を果たしていると言えるのだろうか。

政官民の癒着で既得権益を死守する一方、増税や社会保険の負担には反対し、一千兆円にも上る公的債務を次世代に押し付ける。全て自分達だけが良ければ良いという「私心」で行動しているとしたら言いようがない。

慶應義塾は二〇〇八年に一五〇周年を迎える。昨年の関西合同三田会で安西塾長は150周年の節目として慶應義塾及び塾員が未来への先導者とならなければならぬ。そのためには研究を益々充実するとともに、未来を先導する人材を輩出していくための長期的なビジョンをお話された。

勿論、ソフト面だけではなく、古くなった大学施設のリニューアル、あるいは新しい研究施設の建設等、資金が必要なものもある。一千億円にのぼる事業となることだ。その四分の一は塾員による寄付で賄う予定で塾員には既に振り込み用紙が送られてきている。

創立五〇周年の時には、三田の図書館が江戸・明治生まれの諸先輩の寄付等で建てられた。一〇〇周年では日吉の記念館が明治・大正生れの先輩の寄付によって建てられ、我々はそれらの尊い先輩のお陰で学問をし、運動に励むことができた。今更ながら深く感謝しなければならぬ。

今回は我々昭和時代の塾員がこれから五〇年先までの後輩の為に尽力していく番である。せめて塾員だけでも自分達が享楽を貪り、次の世代に負荷を負わせるのではなく、次の世代の為に行動しなくてはならないのではないだろうか。

人生は短い。私心に走って僅かな資産を子供に残しても子供を駄目にするだけで社会に役に立つとは思えない。それだけの私財があるのなら、慶應義塾に捧げて、社会に役立つ多くの研究や将来を担う多くの未来の先導者が生れることに貢献したいものだ。

福澤先生の崇高な精神と思慮には到底達しなくとも、せめてそれぐらいのことをしなければ、昭和の人間は欲得と私心に走った酷い世代だったと後世まで言われるだろう。

我々も微力ながら未来の先導者たらん。

(瑞應)

～初企画“海外ツアー”旅行記～

第1弾

《クルンテープ（バンコク）の散歩》

善塔 勝一郎（昭41法）

バンコクの4日目の朝、日が昇って間もない6時過ぎホテルを出て、シーロム通りからルンピニ公園へ歩く。地図上2kmだ。

通りには人、車、バイク、屋台が溢れている。少し歩くと汗が出てきた。何か飲もうと店に入り、アイスコーヒーを注文。「30」と店の女性が言うので、「サタン？」と聞くと「そんな訳ないでしょ！パーツですよ！」という顔をされた。紙コップに沸かしたコーヒーを入れ砕いた氷を入れている。半分程も飲んで「しまった！氷は生水同然だった！」と気付いたがもう遅い、結局全部飲んでしまった。

道端で何やら焼き始めているオバサンがいる。4つの肉片を刺した串が1本5パーツ、2本を買い、建物の石段に座って食う。タレと香辛料がよくあって肉も美味しい。「何の肉か？」と顔で聞くと「ピッグ」と言う。別の盛り皿を見ると鶏の砂肝がある。これも1本5パーツ、2本買って食う。時間と共に通りに人は更に増えてきた。

テントに机とベンチを並べてご飯やらおかず、サンドイッチなど品数豊かに取り揃えている。ここに入り大鍋のスープを頼む。店の兄ちゃんが底の方をかき回すと大きな塊が浮いてきた。これを4つお椀に入れ、鶏の肉団子を3つばかり加え、香味野菜の葉を浮かべた一品が20パーツだ。大きな塊は一つが豆腐半丁位あり外側は透明なゼラチン状のレバーだ。隣りで朝食をしている聡明そうなタイ男児に「これは何か？」と顔で聞くと、何やら説明してくれた後に「ポーク」と聞こえた。そうか豚のレバーか。このレバーは淡白でそれでいて深い味があり、香辛料と香味野菜の効いたスープと共にとても美味かった。

通りとスカイトレインの高架橋が合流した地点は狭くなっており、そこは人や屋台が詰まり通過しにくい。人混みをすり抜けると、そこはシーロム通りとラーマ4世通りの交差点で、ルンピニ公園の南西の角だ。広い通りを走って渡り公園に入る。ここまでホテルから1時間経っていた。公園の入口にはラーマ6世の巨大な立像があり男がお

供えの花と線香を売っていた。5パーツだった。

公園は広大で中に大きな池があり、東洋人、西洋人入り乱れてランニングや散歩や太極拳などをやっていた。すんだ人は仲間うちで持参した物を広げて飲み食いして盛り上がっていた。

池を周回していると水面に何か泳いでいるのが見える。通りがかりの男に「あれは鱈か？」と聞くと、いろいろ説明してくれたが、「野生のはいない。」と答えたように思う。最後に「ドラゴン」と聞こえたので「トカゲか！」と納得した。

池を回り終わる頃、遠くに音楽が聞こえ、人々は直立不動で同じ方を向いている。時計を見ると8時。ガイドブックには、国歌が8時と18時に流れ人々は起立して傾聴するとあるがこれがそうだろう。私も立ち止まって国歌を聴いた。

公園の入口に戻り地下鉄のシーロム駅に向う。西隣のサムヤーン駅までの切符を買うと14パーツでコイン状のトークンをくれた。このトークンを改札機の小さな画面に近づけるとゲートがバーンと強力に開く。この駅はビジネス街にあるので、電車から通勤客がドドッと降りてくる。先頭にいたのはギクッとするような、いやハッとするような美人で、振り向くともう人混みに消えていた。

サムヤーン駅から再びシーロム駅に折り返し、元来た経路を忠実にたどって地上に出た。次にすぐ近くのスカイトレインのサラディーン駅に行く。一つ先のチョーンノンシー駅はここからゾーン1の10パーツで行ける。

地下鉄でもスカイトレインでも屋外のATMでも至る所ガードマンだらけだ。すぐ電車が来てシーロム通りの高架を快走、途中南に折れてノンシー駅に着く。高架の下を歩いてシーロム通りに戻る。

9時近くなっても暑くて堪らぬ。通りに車、人が激しく往来し、シーロム通りは躍動の真っ最中。ホテルを出てから3時間近く経ち、私は汗びっしょり。アイスコーヒーの氷にも当たらずに済んだようだ。ホテルの部屋に帰ると冷房がよく利いて生き返った。



バンコク4日目のツアーがまた始まった。今日も香辛料と香味野菜の使い方が絶妙のタイ料理を腹一杯食おうとしよう。

会員だより

《神戸全日本女子ハーフマラソンに参加して》

宍戸 洋 (昭和 58 法)

11 月 27 日 (日) 神戸空港開港記念・神戸全日本女子ハーフマラソン大会が開催されました。昨年は、女子のみの参加で、震災 10 周年にちなんだ HAT 神戸から長田にかけてのコースを颯爽と走り抜けていくヌデレバ選手らを沿道から指をくわえて応援していたのですが、今年は、神戸空港まで走るというコースで男子の部が創設されたので、是非自分も選手として走ってみようと思いをしました。

当日は、澄んだ青空が上空に広がり、ひんやりとした空気の中、樹々が色づく絶好の秋日和。9 時にスタート会場の磯上公園に行き、受付を済ませ、ゼッケン順に整列し、そのまま隊列を組んでスタート地点である東遊園地前まで移動します。10 時 20 分、1000 人ほどのランナーが市長の号砲の下、完全に交通遮断されたフラワーロードを山側に向けて一斉にスタートしました。市役所北側を左折し、大丸前→元町駅→神戸中央郵便局前と昔ながらの落ち着いた市街地をコースに取ります。普段は交通の激しい広い道路を通行止めにして、要所要所に配置された警察官や沿道の多くの人々に見守られながら、2 km、3 km と快調に進んでいきます。中郵からコースを東にとり、和田興産本社前やルミナリエの飾りの下を通り、日銀前から海岸通に出て、若々しい街並みと紅葉した並木が美しい新都心 HAT 神戸まで進みます。ここで折り返し、ポートアイランドに向かう神戸大橋を渡ります。橋の上に 10 km 地点があり、上り坂で若干ペースダウンするものの、下りでは加速してポーアイに上陸。左折、右折し、広いまっすぐな道を南下していくと、右手にガッチャンという遊技機の音がけたたましいポートピアランド、前方に神戸空港へのスカイブリッジの坂が大きく盛り上がって見えてくる。高さ 20 メートルほどのブリッジを登って下り、空港島に上陸、しばらく行くと折り返し、また橋を渡り返します。きついアップダウンですが、空港見学ウォークの人の“ガンバレ”に励まされながら、どんどん前のランナーを追い抜いていきます。橋の上からはキラキラと輝く海が印象的でした。ポーアイに再上陸後、一路、市民広場前まで最後の力を振り絞り、両サイ

ドの人垣に迎えられゴールイン。神戸高生の補助員が〔KOBÉ〕と印字された大きなスポーツタオルをかけてくれました。

順位は 64 位、タイムは 1 時間 27 分 04 秒と、目標の 1 時間 30 分を上回ることができました。爽やかな汗を流しながら、神戸の街の様々な表情を満喫できた素晴らしい一日でした。

会員の中で、ご一緒にランしていただける方おられませんか？

《チェンマイと私と 5 人の K 氏》

竹谷 康弘 (昭 57 商・62 商博)

数年前の暮れのこと、海外旅行の達人 K 氏 (当時 70 才台前半) からタイ王国北部旅行の写真を一枚ずつ解説付きで見せて頂いた。先進国大好きアジアに辛口の K 氏が、「いい所だよ、心が洗われる気がするよ」とベタ誉め。K 氏は K-2 氏 (当時 60 才台後半) を中心にグループでよく洋行されており、その方々にはよく誘われていた。しかし旅行のお話をその都度お聞きしても私の心は反応せず、ご一緒させて頂くことはなかったのだ。数日後、その話を K-3 氏 (当時 40 歳代半ば) にしてみると、「おまえにピッタリだよ！北部は人の気質もいいし、気候も乾季ならね。食事は中華かホテルだな、タケなら。何をしても物価が安いのが特にタケ向きだな。タイ式マッサージもいいぞ。週末の弾丸ツアーも成立する。俺はこの前行ってきた処だから、今度声かけるよ」と、話が K 氏の説明と一致。こうなると無性に行きたくなる。翌新年会の席で K-2 氏に話をお聞きすると、「一緒に行こう」と企画して頂いたが連休の飛行機が取れずに中止。諦めの早い私は「縁がないのだな」と。しかし K-2 氏は翌月にも企画、タイの地を踏んだ。神戸出身で現地ロンステ中の K-4 子さん (当時 50 歳代半ば) と現地のホテルウーマン K-5 さん (当時 20 歳代半ば) に貸切ワンボックスカーでこちらの要望どおり一日中あちこちを案内して頂いたが、彼女らへのお礼を入れても総額は旅行社のツアーより安く上がった。当初はお断りした“象乗り”、K-2 氏に「まあ、お乗り」と再度勧められ、山間部を 2 時間乗り込んだ。聞いてみると日本の動物園帰りの象、その背中が人生観を変えた。茶色い水の川面を 3 人乗りのボートでまさしくぶっ飛ばすと、テ

レビドラマのように時間が止まって感じられた。仏教とはいえ日本とは全く異なる寺院を回り、俄か仏教徒よろしく金、緑、白と様々な色の仏像を拝んだ。着いた日がお釈迦様の日であったことが作用したのか、虜になった。その後も何度か足を運び、レパトリーを増やし、ついには女房子供を案内した。行き先はチェンマイを中心としたタイ北部、ラオスにミャンマー、あの空気を吸い、雰囲気を味わうと心が落ち着く。多くの笑顔に出会うと自然と笑顔になる。楽しい時は早く過ぎ去るものだが、タイ北部は楽しいのに時計がゆっくりと進む不思議さを持っている。

〔余談〕芸能人の島田紳介氏が選挙応援で「誰も老後を〇〇やチェンマイで過ごしたくないんですよ、日本で過ごしたいんですよ」と涙ながらに訴えていたが、私の出会った方々は皆さん存分に楽しんでおられるようにお見受けしましたし、一言「知らんのかなあ」と。

ちょっと一言

高嶋 哲夫 (昭48工)

2005年12月に『TSUNAMI』(集英社)が出ました。主人公は違いますが、基本的に『M8』の続編です。

『M8』を書くときに意識を離れなかったのは、阪神・淡路大震災の犠牲者の家族、被災した人たちが読んで不快にならないこと。これは、僕にとっては最も大事なことであった。東京に大地震が起これば、こんなものではない。高層ビルは倒れる。死者の数が一桁違う。考え方が甘すぎる。様々な意見をいただいた。しかし、『M8』で使っている数字、被害状況にはすべて裏付けがある。政府の中央防災会議の発表をベースとして、地震の種類を考慮して、被害想定を行った。根拠のない、想像だけのものは書きたくなかったのだ。だが、書きながら実際に東京をM8クラスの地震が襲えばこんなものではないだろうという思いは常にあった。

『TSUNAMI』においては、そうしたことをすべて取り扱った。といっても、可能な限りの資料は調べた。都市型災害には多くの複合的要素が混ざり合い、わずかなことでもとんでもない災害に発展することもある。それらは限りなく広がり、書き尽くすことなど到底できない。ここに書かれている状況は、起こりうる事態のほんの一部に違いない。そうであっ

ても、いたずらに恐怖心を煽るだけと言う意見もあると思うが、これが日本列島が置かれている現実である。

同好会だより

KKJC

♪♪KKJC クリスマス&忘年会♪♪

暮れも押し詰まった12月25日夕刻“ヨー・キムラ・トリオ”ジャズコンサートの鑑賞と忘年会を行いました。会場の西宮「煉瓦館」に24人(含む家族、友人)が参集して、クリスマスソングなど聴いて楽しみました。中でも小川理子さん(昭61理工)の「アメージング グレース」は最高でした。

引き続き近所のレストランで忘年会を行いました。理子ちゃんも顔をだしてくれて、みんなで和気藹々とジャズ談義などして1年のアカを落としました。特製の吟醸酒をお土産に、ご機嫌で帰宅しました。

ジャズのお好きな方はご一報ください。

世話人：近藤 正 (昭39商)

マジック同好会

1月5日の賀詞交歓会でミニ発表会を行います。例会は2月10日(金)の予定です。

世話人：塚本 明久 (平9総)

イーゼル会

《今月の絵》



天木 明 (昭40商)

会員の輪

《絆～慶應義塾の素晴らしさ～》

二川 和也 (平 17 商)

2001 年 4 月、私は何も分からないまま母親と二人で上京し、入学式を迎えました。中学・高校ともに慶應に入学した同期がいないこともあり、期待以上に不安を抱えた一日でしたが、当時の鳥居塾長がおっしゃった「慶應義塾に入ってよかったと本当に感じるのは、社会に出てからかもしれない」という言葉は今も胸に残っています。

入学式翌日、サークルの説明会に参加してから、不安がぶっ飛び、『慶應義塾大学の絆の素晴らしさ』を実感する毎日がスタートしたのです。

私は「非常に厳しく楽しいソフトテニスサークル」で最も多くのかげがえのない時間を過ごしてきましたが、それ以外でも、三田祭、各種スポーツの慶早戦など他大学では感じ得ない数々の経験をしてきており、就職用業界説明会、OB 訪問などでは塾員の方々に大変お世話になってきました。そして、その度に感じてきたのが、『慶應義塾ネットワークの強さ』です。各業界でご活躍されている塾員の方々が非常に多くいらっしゃることは当然、誇れることですが、その先輩方がみな親切に、思いやりを持って接して下さることが最高の喜びです。

神戸にいつまでいられるか分かりませんが、神戸慶應倶楽部の皆様、今後ともよろしく願い致します。



新入会員紹介

～～1 月例会のお知らせ～～

日時：1 月 27 日 (金) 18:30 より

倶楽部ルームにて開催

会費：2,000 円

～～今後の行事予定～～

2 月 16 日 (木) 2 月例会 倶楽部ルーム

3 月 24 日 (金) 3 月例会 東天閣予定

詳細につきましては、BRB・メールマガジン等でお知らせしますので、毎月ご確認ください。

皆様の投稿をお待ちしています。

「BRB」についてのご意見、ご感想もお聞かせください。

堀 友子

八巻 晤郎

編集後記

○平成 17 年の漢字は「愛」でしたが、神戸慶應倶楽部では「輪」というところでしょうか。久しぶりの芦原直哉会員の「慶雲應輝」の復活も嬉しいですね。この会報誌が交流広場になることを祈り、また一年頑張ります。

(ほ)

○通信・情報世界の発展、発達が一層加速しておりユビキタス社会も表裏様々。インターネットとテレビの融合で世界は一層小さくなり、お互いが影響しあうようになるのでしょうか。われわれの精神性はそれに追いついているのでしょうか？

不安先行の年明けです。

(晤)